玉櫛遺跡では、今の地面から約3メートル下の古墳時代の地面までの間に、約1600年間の歴史がつまっています。

玉櫛に人々が暮らし始めるのは、古墳時代です。これまでの調査で建物跡などがみつかっています。 その後300~400年間は人々が活動した痕跡は認められませんが、平安時代中期になると、周辺一帯 が開拓されていきます。碁盤の目のように整然と土地を区画している、条里型の田んぼがつくられま した。これは、今も玉櫛周辺の広い範囲でみられる、東西南北に土地を区画している地割りのルーツ といえるものです。

しかし、やがて田んぼは洪水の被害にあい、土砂で埋もれてしまいます。

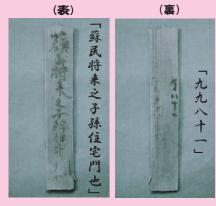
玉櫛に再びムラができるのは、平安時代後期です。これまでの調査で、建物のほかに、木の棺(ひつぎ)に遺体とお供えものをおさめた墓などもみつかっています。

鎌倉時代の玉櫛にも、ムラがありました。建物のそばには井戸があり、中国や朝鮮半島産の珍しい 陶磁器も出土しています。またこの頃には、きちんと東西方向と南北方向を向いた、幅の広い溝が掘 られました。これらの大規模な溝群は、水の利用や排水の効率をよくし、この地域の開発を進めるた めのものと考えられます。

その後、玉櫛は室町時代、江戸時代、近現代までずっと田んぼやはたけでした。府営住宅が建てられる前の航空写真をみると、条里型の水田が、あたり一帯に広がっていたことがわかります。

出土品あらかると

おまじないの札が溝から出土しま した。病気から身を守るといわれ ているものです。



鎌倉時代

鎌倉時代のムラの跡からは、土師器 (はじき) の小さな皿を埋めた穴がいくつかみつかっています。



鎌倉時代

平安時代のムラの跡では、小さな穴の中から土師器の皿が重なった状態でみつかりました。住人が何らかの 析りをこめて埋めたのでしょうか。



平安時代後期

鎌倉時代



漆 (うるし) 塗りの椀と皿が、溝と井 戸から出土しました。赤い漆で塗られた皿 (写真) や、黒地に赤で紋様が 描かれた椀などがあります。

鎌倉時代



朝鮮半島産の青磁(せいじ)の破片。 紋様の部分に違う色の土を埋め込む、象嵌(そうがん)という特殊な 技術が使われています。

占墙時代



溝や穴から、須恵器の杯(つき・写真) やそのふたなどの器(うつわ)類のほか、 煮炊きをするための土器もたくさん出 土しました。



鎌倉時代 5から 700~800年前

たくさんの柱穴や井戸と、幅の広い溝がみつかりました。建物のそばに井戸が掘 られています。井戸はいくつかありますが、桶(おけ)や曲物(まげもの)、石やリサ イクル材など、さまざまなものを利用して枠が作られています。幅の広い溝は、き ちんと東西方向、南北方向を向いており、計画的に掘られたことがわかります。





▲ 井戸 桶を井戸枠に利用しています



▲ 溝 幅約9m、深さ約1mです

地表下3メートルに眠っていた

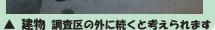
標高 たまくし住宅 いま 6.5m

6.0m

今から 800~900年前

柱穴と溝がたくさんみつかりました。この場所で何度も建物が建て替えられ、 生活が続けられていたことがわかります。建物の柱は、穴を掘って埋められて いますが、沈みこまないよう、下に石や木や器の破片などを敷く工夫をしたも のが多くみられました。





安時代中期 900~1100年前

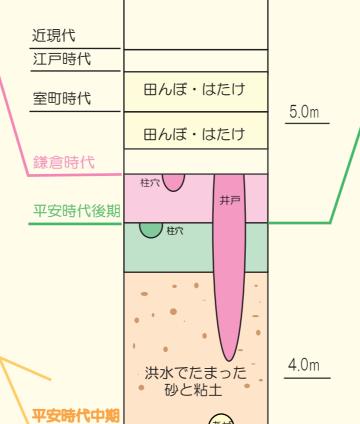
▲ ムラの跡

この頃、玉櫛遺跡では田んぼが広がっていました。東西南北に整然と区画され た、条里(じょうり)型の田んぼです。今回の調査では、東西13~16メートルの間隔であぜがみつかり、あぜで区画された、南北に長い田んぼが並んでいたことが わかりました。



- あぜで区画されています
- ▼ あぜの水口 (みなくち) 田んぼから田んぼへの水の通り道です





田んぼ

/ 溝

古墳時代

古墳時代 1400~1600年前

▲ ムラの跡

玉櫛遺跡に人々が暮らしはじめるのは、古墳時代です。2001年に今回の調査 区のすぐ南側を調査した時に、建物の跡がみつかっています。今回の調査では、溝や、列状に並ぶ小さな穴などがみつかっています。



▲ 溝と小さな穴が並んでいます